

今週の

いきもの広場

① ナナフシモドキ



4月に卵からふ化したと思われる幼虫です。体長は3mmほど。一般的には「ナナフシ」とよばれていますが、実際は「ナナフシ」という名前の昆虫はいません。

② ウスバカゲロウの幼虫の巣



アリジゴクとして知られるウスバカゲロウの幼虫は、アリなど巣に落ちた獲物を食べて成長し、1~3年後に羽化して成虫になります。

③ オオフタオビドロバチの巣?



竹筒を新調したハチ宿では、さっそく入り口が泥でふさがれた竹筒が見られます。ドロバチのなかまは、筒の内部に卵を生みつけフタをしますが、その際幼虫が食べるエサも一緒に入れておきます。

④ カブトムシの幼虫



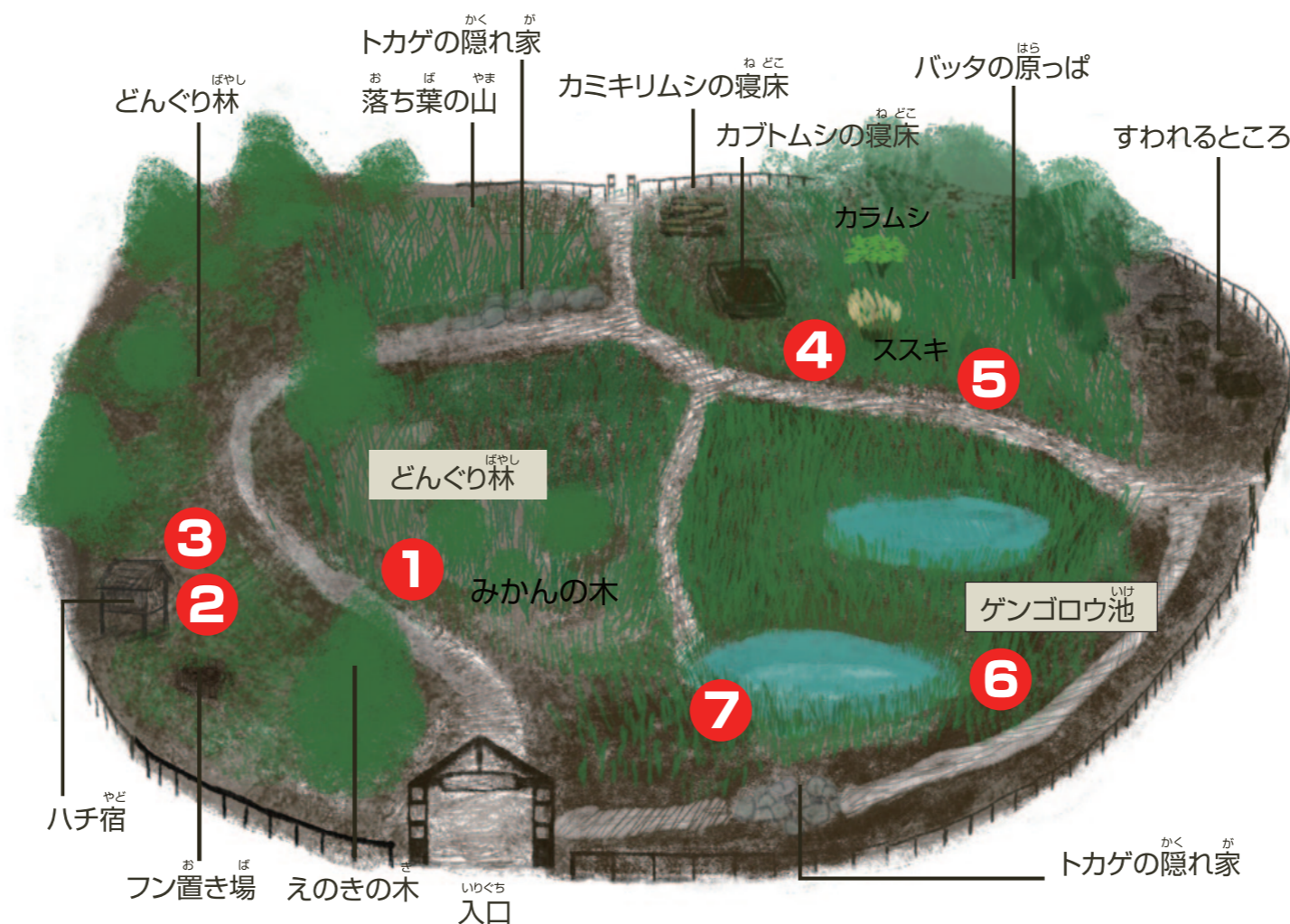
昨年の秋に卵からふ化した幼虫は、土の下に深くもぐり、冬を越します。初夏にはさなぎになり、夏には成虫が見られるようになります。

⑤ キタキチョウ



成虫の姿で冬を越したキタキチョウは、これからネムノキやハギなどに卵を生みつけます。そして春~夏にふ化した幼虫は、成虫になっても越冬をしない「夏型」となります。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。本格的な春を迎え、広場はいきもので賑やかになってきました。



⑦ アズマヒキガエルのオタマジャクシ



3月おわり頃に卵からふ化しました。5月になると手足が生え、上陸すると思われます。水面に落ちた虫や落ち葉などを食べて、ぐんぐん成長しています。

⑥ ニホンカナヘビ



植物や石の上でひなたぼっこをする姿がよく見られます。よく似ているトカゲと見分けるポイントは、体表がざらざらしている点です。